

RemORI MONTHLY /

2024年7&8月号
りもり vol.22
REMEMBER FOREST

林業情報を発信！
りもりマンスリー

開催レポ： 太郎川公園森林フェスティバル

荒木 俊充、長谷川 夏輝 | pp.02 - 03

三嶋の森林プロジェクト完了報告

山口 佑貴 | p.04

01 トピックスTOPICS

10/5-6 森林フェスティバル開催決定！

毎年春・秋の2回、太郎川公園にて開催している森林フェスティバルが、今秋もグルメ祭りと同日の10/5-6の2日間開催することになりました。
春の森林フェスティバルの様子は本紙2-3ページをご覧ください。
秋の森林フェスティバルにも是非ご来場ください。



02 YouTube

ゆすはら 地域おこし協力隊



梶原町森林再生プロジェクト
「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊のPR動画などを配信中！



森林と共に育つ



KIRecub-きりかぶ-チャンネル

新たに立ち上げました！活動風景やイベントの様子などを配信予定！



03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

りもりメンバーが林業を通して梶原町の魅力を発信中！



下村智也



山口佑貴



長谷川夏輝



荒木俊充



吉井香在



Coming Soon

KIRecub-きりかぶ-

造林事業をメインに立ち上げた組織「KIRecub（きりかぶ）有限責任事業組合」です。林業がもっと面白く活気のある産業になるように様々な事業も展開していきます。



ゆすはら森のおさんぽ会

梶原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようちえん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、5歳と2歳の子もたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募集中！0歳からどなたでも参加していただけます。一緒に自然を満喫しませんか？



WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-

協力隊を卒業した角金玄が個人事業主として開業。ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。



Coming Soon

Coming Soon



開催レポート： 太郎川公園

5月26日、太郎川公園森林フェスティバルが開催されました。

春と秋の年2回開催しているイベントで、今回もたくさんの方にご来場いただきました。

今回からは実行委員会制とし、我々地域おこし協力隊も実行委員として企画・運営に関わらせていただきました。実行委員として出店者の選定に関わらせていただいたり、協力隊メンバー自身も出店したことで、これまでも増して、梶原町らしい、ReMORIらしい、森林フェスティバルになりました。

また、今回は、花見広場、ステージ、湿生園に加え、ステージ観覧席の上に広がる斜面のエリア、その更に上の、地域おこし協力隊の演習林まで広く活用し、今まで以上に森林との距離感の近いイベントになりました。

紙面の都合上、全部は紹介しきれませんが、協力隊の出店内容や新たな取り組みを中心に、一部報告させていただきます。

会場の一番奥、斜面を登り切った先の演習林では、梶原町若手林業研究会「CoMORI」とHARDWOOD（株）による“林業体験”が開催されました。チェーンソーを使っての丸太切りや薪割りを体験していただき、また、搬出作業を間近で見させていただきました。本物を体験し、間近で見られるイベントとあって、大人も子どもも真剣な顔でご参加いただけました。

そのすぐ下の斜面のエリアには、いの町の吾北地域を中心に活動するやしろ自然学校に、“出張プレーパークだんだん”として出店いただきました。プレーパークとは、子どもが遊びを作り出せる自由な遊び場で、ブランコや滑り台といった遊具がなくても、その場にある落ち葉や土など自然の素材を使って、それぞれのやりたいことを実現する場とされています。今回は草花の叩き染め、端材を使った自由な木工、焚き火場などをご用意いただき、子どもが思い思いに、のびのびと過ごせる場を作らせていただきました。木工用の端材と焚き火場の薪は町内の川上製材所と川上木材（株）にご提供いただき、さらに当日林業体験で作ったものも加えたことで、森林とのつながりも感じられるプレーパークになりました。

また、焚き火場では、東京・港区のプレーパークを主催・運営するNPO法人みなと外遊びの会（みなそと）代表の木下久仁絵氏をゲストにお招きし、協力隊・荒木も参加して“子どもの外遊びについて考えるお話し会”を開催しました。雨が降り気温が下がる中、暖かい火を囲んで東京の外遊び事情について伺いながら、高知の外遊びについて考えました。途中、東京では自然のものを集めるのが大変で、焚き火や木工のための薪や端材をホームセンターで買うというお話がありました。一方、目の前で町産の端材や草花を材料に目を輝かせて遊ぶ子どもたちの様子を見て、自然の素材に囲まれている梶原町とプレーパークの相性の良さを感じるとともに、改めて子どもが育つ場としての梶原町のポテンシャルの高さを強く感じました。

同じ斜面のエリアで、協力隊・荒木による“森のナイフ教室”、ゆすはら森のおさんぽ会による“森のようちえん写真展”も実施しました。

森のナイフ教室では、5歳程度の子どものから大人までを対象に、演習林で採取した枝を材料にナイフを使って木のボタンを作ってもらいました。初めてナイフを触る子どももいましたが、真剣に取り組む表情や、親子で競い合うようにして取り組む様子が見られました。



CoMORI & HARDWOOD “林業体験”



“出張プレーパークだんだん”の中の“自由な木工”
町産の端材で思い思いのものを作りました



協力隊・荒木による“森のナイフ教室”



ゆすはら森のおさんぽ会 “森のようちえん写真展”

森林フェスティバル

一方、花見広場にも多くの出店ブースが並びました。東京を中心に店舗を構える(株)テーブルカンパニーには、電気・ガスを使わずヒノキの発酵熱のみを利用した“発酵温浴の足湯体験”を出店いただきました。材料のヒノキの枝葉は協力隊が演習林で採取したもので、すぐ近くで採れた材料で温浴を味わえる、素敵な企画になりました。

その隣では高知県立林業大学校に、“チェーンソーVR体験”を実施いただきました。こちらはVRシミュレーターによる伐木作業を“擬似体験”できるもので、演習林側で行われた実際のチェーンソー体験は気後れされた方でも、伐倒手順や立ち位置、受け口などの確認をしながら、リアルかつスリルを味わえる体験になったかと思えます。

他にも、四万十森林管理署による、“木のキーホルダー作り”、高知水源林育成士会による、“木製マグネット作り”、“木のパズルへの挑戦”、“木の部首がつく漢字クイズ”など、多種多様なワークショップを提供いただきました。

木のおもちゃと子ども家具を製造・直販している(株)なかよしライブラリーには、毎度好評の“木のおもちゃ作り体験”と、“お箸作り体験”を実施いただきました。もちろん今回も大盛況。「毎回これを楽しみに森林フェスティバルに来ている」との声も聞かれ、森林フェスティバルの目玉の一つになっています。



KIRecubの木製品販売の様子



協力隊の山口は今回もDJ YAMAGUCHIとして大活躍

また、梶原町内で活動するKIRecubからは、協力隊の下村、長谷川が、木製品の販売やキーホルダー作りのワークショップを行いました。KIRecubでは造林・育林事業を柱としながらも、“林業×^{かける}〇〇”として、いままでの林業のネガティブなイメージにとらわれない、新たな働き方や事業を目指しています。梶原町産材を使ったヒノキのアロマオイルや、木の名刺入れ、コースター、定規など様々なラインナップでお届けいたしました。

そして、初の試みとなるスタンプラリーを行いました。太郎川公園のシンボルとなる樹木も見ただけのように樹木の近くにスタンプを配置することで、会場全体を回っていただくとともに、太郎川公園の魅力も味わっていただけました。スタンプ自体も協力隊がレーザーカッターで作製したお手製のものでした。

その他、誌面の都合上、お名前だけになりますがご出店いただいた皆様をご紹介させていただきます。

～ステージ～

雲の上のヨガ 津野山神楽保存会 明神ひろこバンド
CHIHARU Rize DJ YAMAGUCHI

～湿生園エリア～

relax epic & fil + sleep

～フード&ドリンク～

BONGA 雲の上のカフェ 雲の上ガーデン
自家製スモーク工房CaCooo おちめん チームシルク
INTO THE FOREST samcoupe 梶原竹ぼうぎの会
コビトノオカシヤ 四国部品(株) 中芸食材工房

次回は10月5-6日の2日間開催の予定です。今回よりもさらにいいものにしようと同意気込んでいます。お楽しみに！

今回のREPORTER-リポーター-



ゆすはら地域おこし協力隊 荒木 俊充 -Toshimitsu Araki-

2022年9月に愛知県から移住。
家族は妻、息子2人(5歳・2歳)、ヤギ3頭。
林業技術の修得の他、人と森林をつなぐ活動もしたく、昨年度よりゆすはら森のおさんぽ会を主催。
今年度からはグリーンウッドワーク(採れたばかりの乾いていない木を使った木工)のワークショップを開催しています！



ゆすはら地域おこし協力隊/KIRecub副代表 長谷川 夏輝 -Natsuki Hasegawa-

神奈川県出身の地域おこし協力隊。
今年で3年目に突入。林業研修の他に、森林イベントの運営や木工などにも力を入れ始めました。
協力隊同士で立ち上げた組織「KIRecub-きりかぶ-」では、休みの日を活用して造林の仕事を請け負っています！

完了報告： 三嶋の森林(もり)プロジェクト 伐採編



太い木も安全に十分注意して伐りました

今年2月末から始動した三嶋の森林(もり)プロジェクトの伐採、搬出作業が無事終了しました。

まずは、今回の研修でお世話になった皆様、協力隊一同、怪我や事故がなく終えられたことを嬉しく思います。

今回の「三嶋の森林プロジェクト」は、東区三嶋神社の裏の人工林を協力隊の研修林としてご提供いただき、川上製材所の川上博史さんのご指導のもと、伐採から搬出までを行い、再造林して広葉樹の森林に転換していく試みです。

これまでの研修では、協力隊員の一人一人がReMORIの各事業体にローテーションで配属されるスタイルでしたが、今回の三嶋の森林プロジェクトでは協力隊全員が同じ現場に向き合う形で、準備、架線の設置、伐採、搬出、撤収と、始まりから終わりまでの一連の作業を学びました。

現地は、皆伐の現場としては小規模ながら谷川や急斜面、切り立った崖など起伏に富んだ地形で、道路沿いには電線やガードレール、街路樹もあり、あらゆる条件の現場を想定した訓練場だったと言えます。

効率的な集材作業を考えた伐倒、複雑かつ緻密な架線のシステム、無線でやり取りしながらの作業、電線を気遣いながらの重機の操縦など、どの仕事も極めて刺激的でした。「重機や集材機の操縦は、やればやるだけ身に付く経験になる。チャンスがあればどんどん挑戦してほしい。」との博史さんのご指導の通り、重機の操作も積極的に学びました。

ご指導いただいた博史さん、岡崎さん、柴田運送の皆様、地域の皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の区画での伐採研修は終わりましたが、プロジェクトはまだまだ続きます。今回の区画については地拵えを行い、広葉樹を植栽予定です。また、周辺の区画についても同様に皆伐再造林を行う計画もあります。

植える木に関しては、地元で採取した種子を育てた苗木を用いるなどし、その場の自然環境に適した森林へ転換します。それにより、自然の力で循環する森林づくりを目指していきます。



林業架線の架設作業もご指導いただきました



明るくなった現場を見上げる師匠たち

今回のREPORTER-リポーター-



ゆすはら地域おこし協力隊/KIRecub
山口 佑貴 -Yuki Yamaguchi-

高知市出身の32歳。今年で協力隊3年目。二児の子育て中。山仕事の他に自然観察、家庭菜園、釣りにレコードDJなど多趣味。造林組織「KIRecub-きりかぶ-」の一員。